

リオン株式会社

2017年3月期決算説明会

東証一部 証券コード〈6823〉

免責事項 | 本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

I 決算のご説明

- 2017年3月期の実績
- 2018年3月期の見通し

常務取締役 大内 武彦



売上は増加するも、費用の増加により減益

- 微粒子計測器の販売が大きく増加
- 補聴器は販売子会社「東京リオネット販売(株)」の連結等で売上が増加したものの、費用も大きく膨らむ
- 遊休資産の減損を計上したが、投資有価証券の売却益がほぼ同額であったため最終利益への影響は軽微

連結損益計算書

売上高は前期を上回るも、
販売費の増加により減益に

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	18,859	19,194	335	1.8
売上原価	8,945 (47.4)	9,009 (46.9)	63	0.7
売上総利益	9,913 (52.6)	10,185 (53.1)	271	2.7
販売費及び一般管理費	7,644 (40.5)	8,317 (43.3)	672	8.8
営業利益	2,268 (12.0)	1,867 (9.7)	△401	△17.7
経常利益	2,370 (12.6)	1,957 (10.2)	△413	△17.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,594 (8.5)	1,408 (7.3)	△185	△11.6

※()内は対売上高比率：％

営業利益の変動要因

主な要因

微粒子計測器の売上が
前年比で11.8%増



主な要因

将来の成長に向け、補聴器の販促費を増加

- ・ 新製品の試聴器を各販売店に提供
- ・ 学習教材「耳と補聴器のひみつ」発刊
- ・ 株式会社サンリオとのコラボレーション
- ・ 補聴器の販売子会社を連結対象に追加



売上高の増加
3.3億円

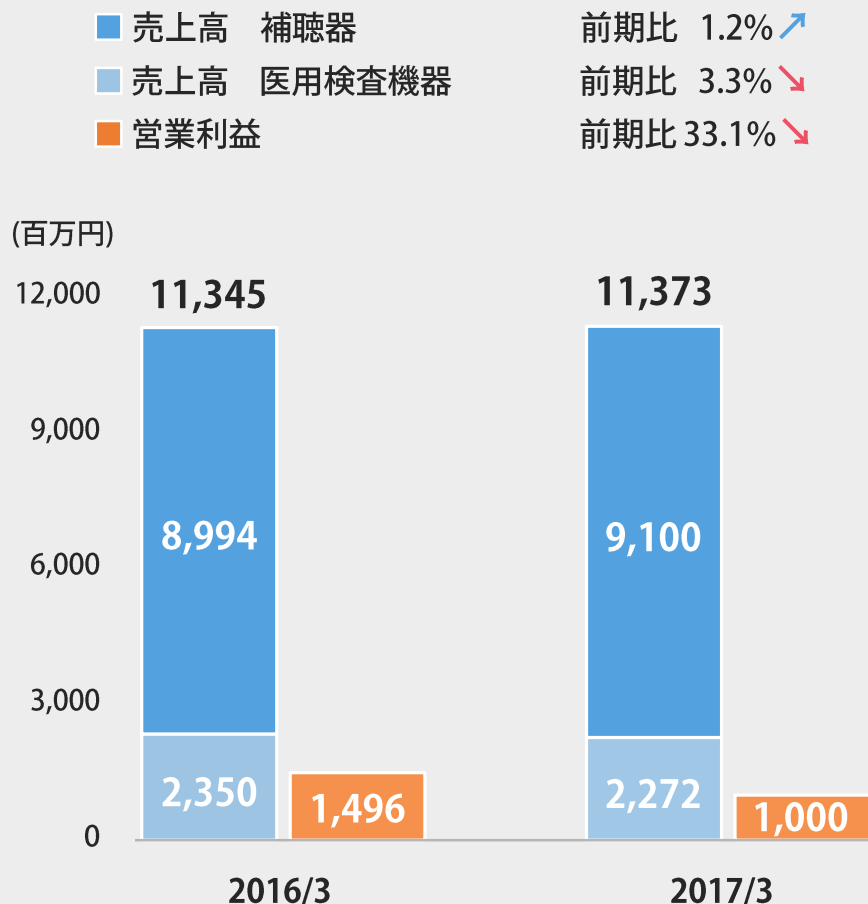
売上原価の増加
0.6億円

販管費の増加
6.7億円

2016/3 営業利益
22.6億円

2017/3 営業利益
18.6億円

前期比で増収も、販売費の増加により減益に



補聴器



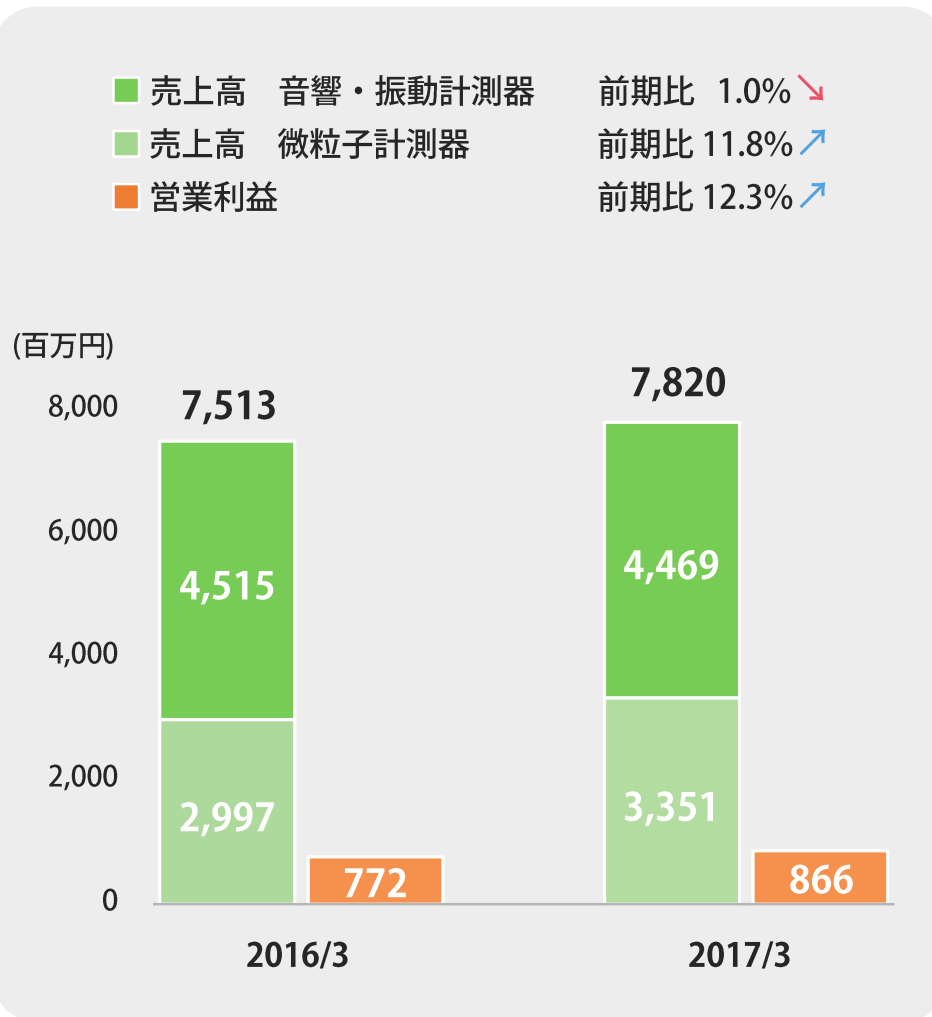
7月に4シリーズ18機種を投入したことに加え、販売子会社を新たに連結したことから増収に

医用検査機器



高額製品の販売が好調に推移したが、総合病院や大学病院等への聴力検査室の販売が伸び悩み、売上高は前期を下回る

微粒子計測器の好調な販売により増収増益に



音響・振動計測器



建設工事の増加により騒音計や振動計が堅調に推移するものの、自動車関連工場等における設備投資、年度末に集中する高額な受注が伸び悩み減収に

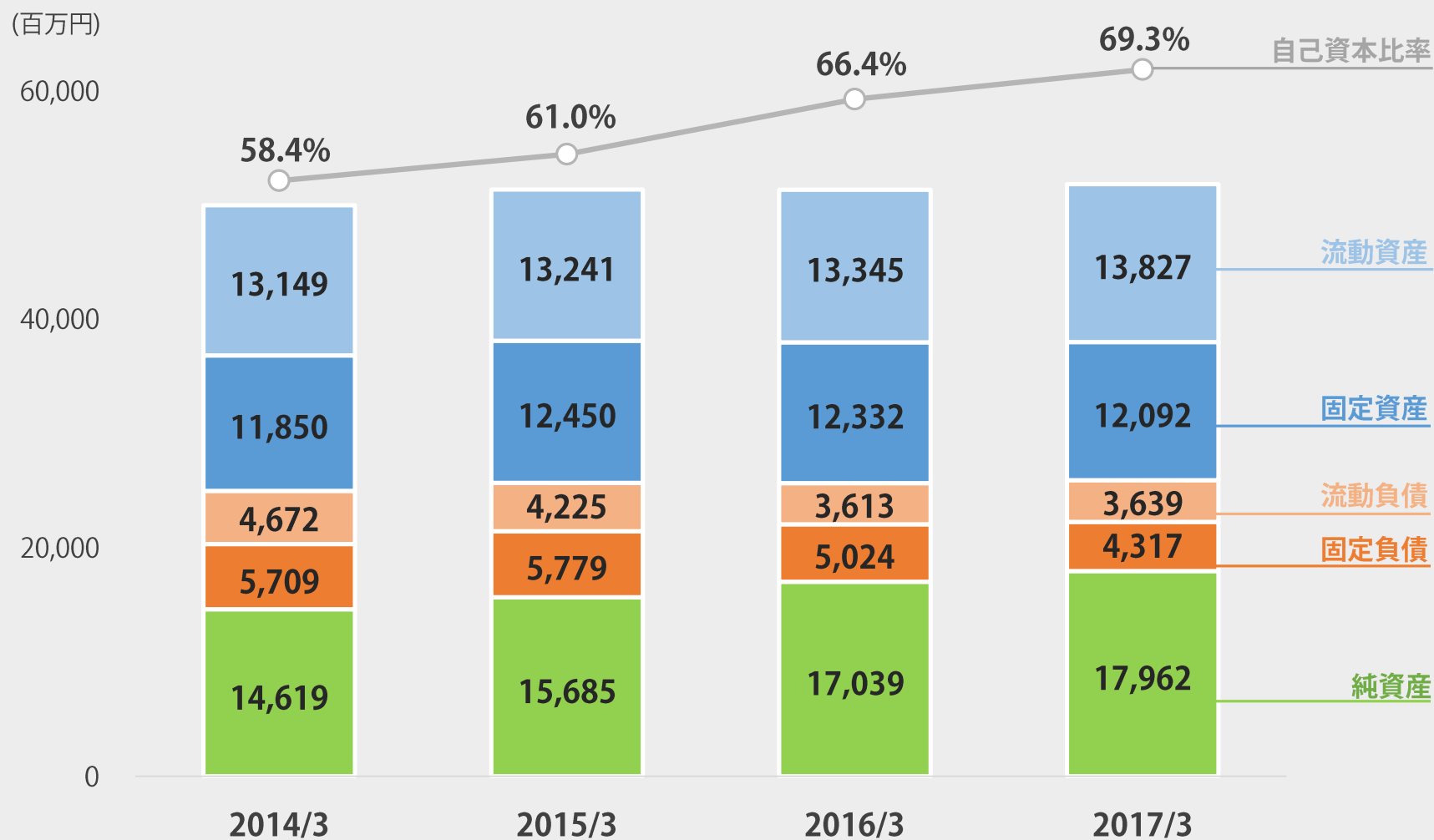
微粒子計測器



電子デバイス関連市場における設備投資意欲が旺盛。海外で最新鋭の製品の販売が好調に推移し、売上高は前期を大きく上回る

連結貸借対照表の推移

有利子負債の圧縮により財務体質の改善が進む



連結キャッシュ・フロー

主な内訳

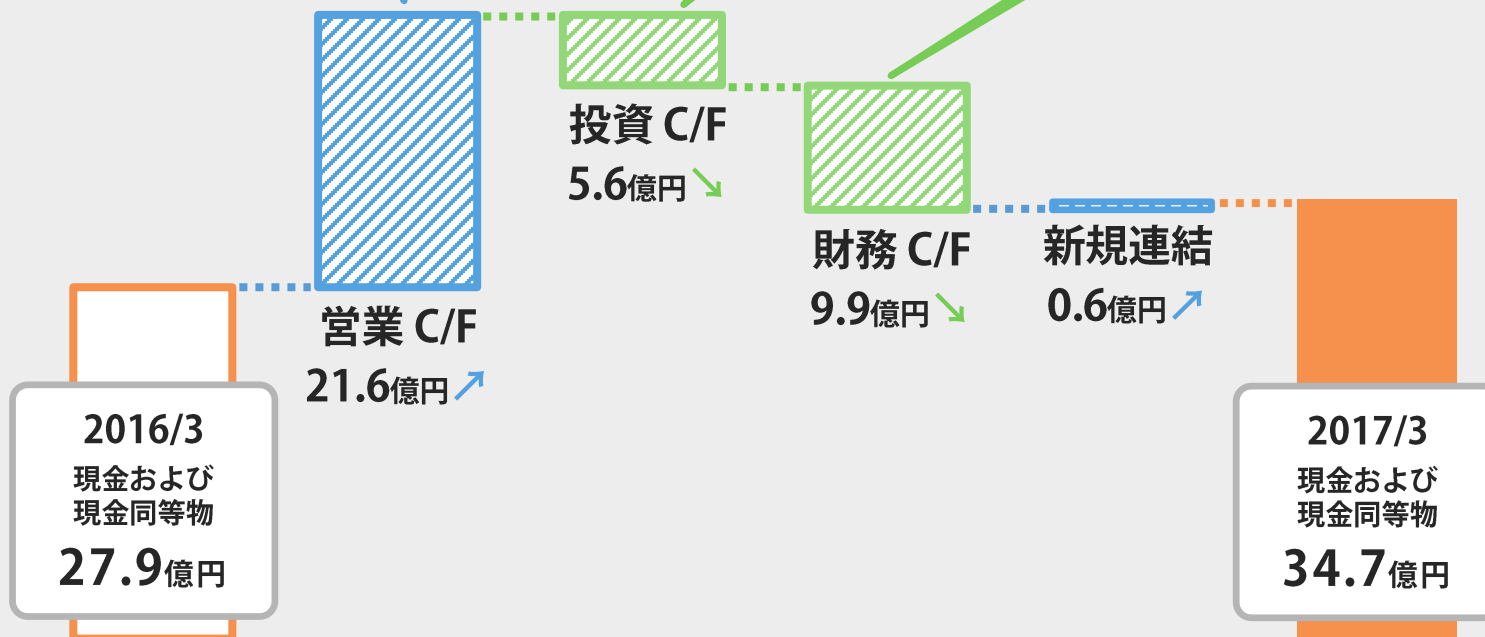
- ・税金等調整前当期純利益
19.6億円

主な内訳

- ・投資有価証券の売却による収入
2.4億円
- ・固定資産取得のための支出
△7.5億円

主な内訳

- ・借入金の返済 △6.1億円



2018年3月期の見込み

売上高の増加とともに利益の回復を見込む

(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	当期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	19,194	19,600	405	2.1
医療機器事業	11,373	11,500	126	1.1
環境機器事業	7,820	8,100	279	3.6
営業利益	1,867	2,300	432	23.2
経常利益	1,957	2,400	442	22.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,408	1,700	291	20.7
1株当たり当期純利益	114円72銭	138円47銭	—	—

II 今後の事業施策

- 経営指標等について
- 製品群別の事業施策

代表取締役社長 清水 健一



連結売上高200億円以上

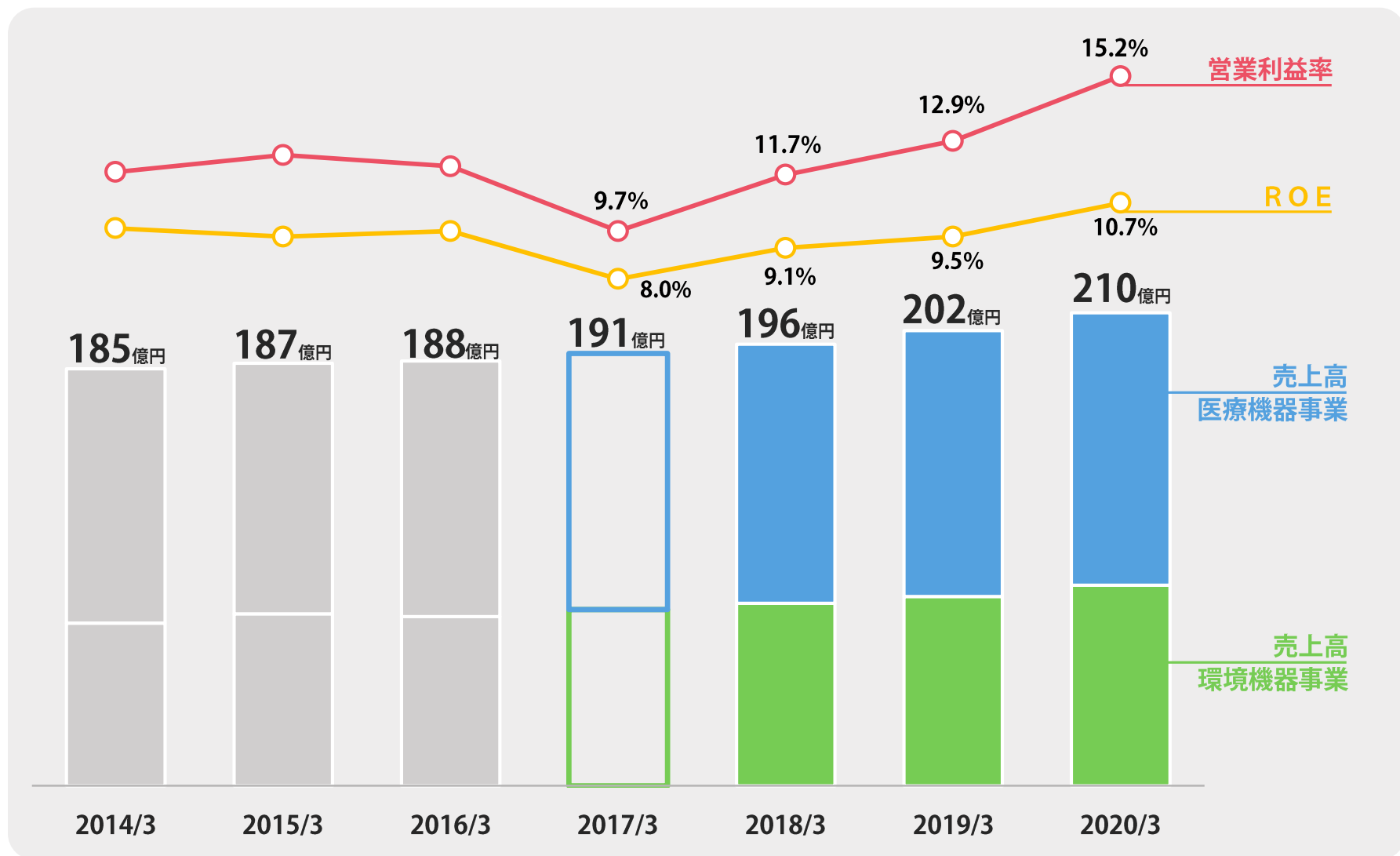
営業利益率15%以上

ROE(自己資本当期純利益率)10%以上

今後3年以内での達成を目処とする

今後3年間の業績見通し

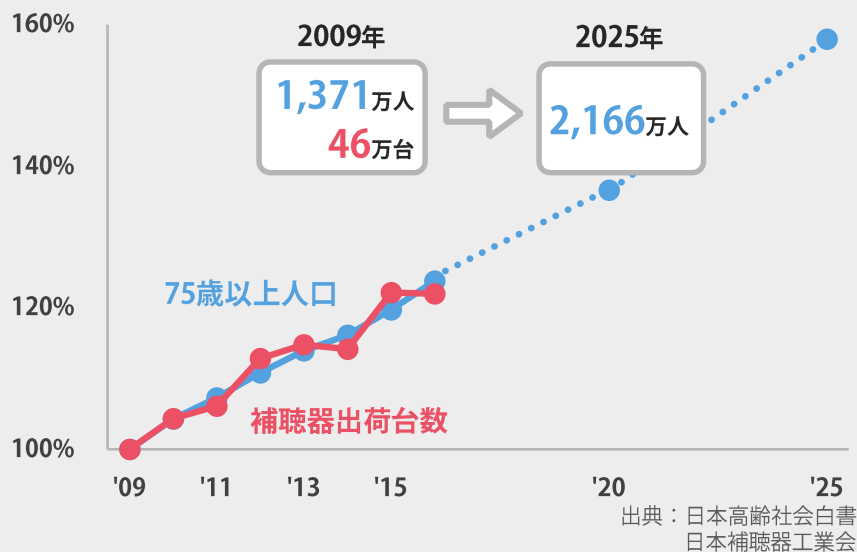
売上高の増加による営業利益率の向上を目指す



補聴器

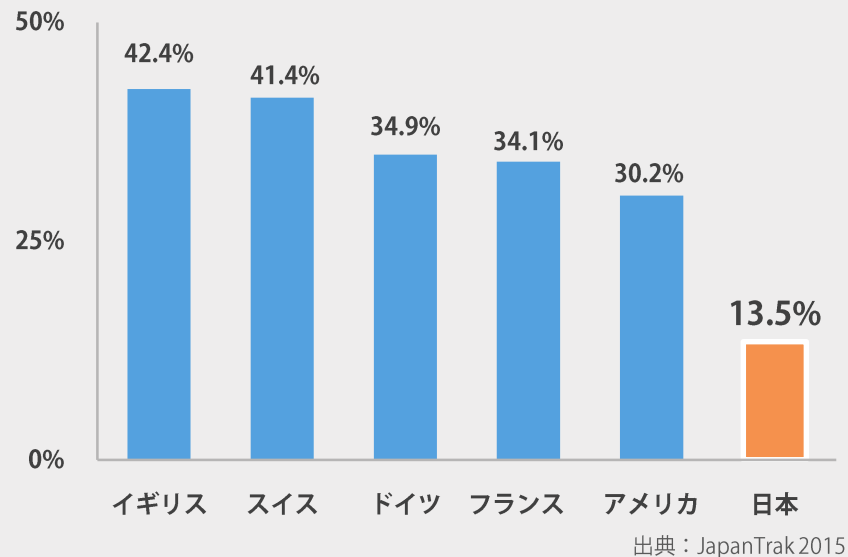


国内の75歳以上人口と補聴器出荷台数の推移



高齢者人口の増加に比例し、
今後も補聴器市場は拡大を見込む

難聴者の補聴器装用率

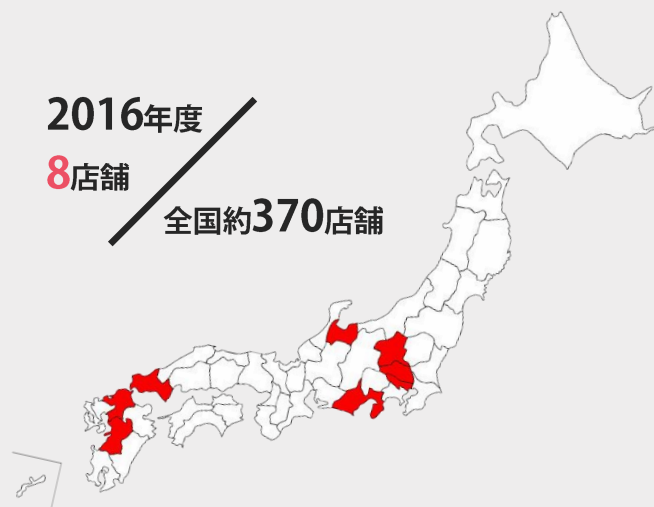


一方、制度の違いなどから
普及率は他の先進国に比べ低い

高齢化の進行と普及率の改善により
補聴器の市場は今後も拡大する余地がある

販売力強化のための取り組み

販売店の増加



リオネット補聴器専門店で
年間10店舗を目標に新規出店

×

販売店の魅力向上



補聴器フィッティングのノウハウ、
販売支援ツールの提供により
他社との差別化を図る

強みである販売、アフターフォローをさらに強化
新たなユーザーを呼び込み、リピーターを創出

ウェアラブルコミュニケーションデバイスのBONX社と業務提携

- 当社の技術とBONX社のネットワーク技術やソフトウェア開発技術の融合を図るほか、今後新たな聴覚デバイスの可能性を探る



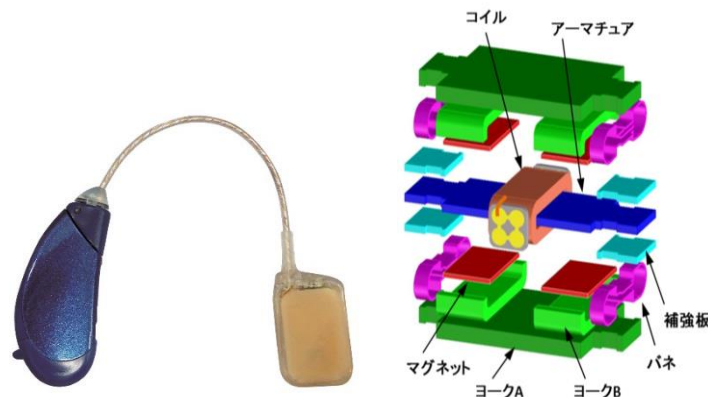
BONX Grip



「BONX Grip」は革新的な発話検知機能や優れた通信機能により、あらゆるシーンでコミュニケーションの可能性を広げる

強みのセンサー技術を活かし他社にない製品開発に取り組む

- 世界初の軟骨伝導補聴器は発売に向けての準備が進行中
- マイク、スピーカーを自社開発する強みを活かし、リオンならではの機能を持った製品を今後発売



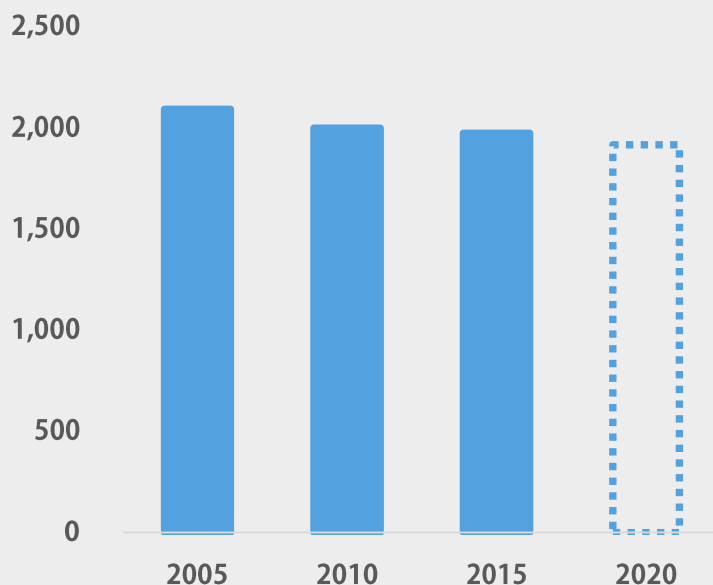
軟骨伝導補聴器と使用される振動子の内部構造

医用検査機器



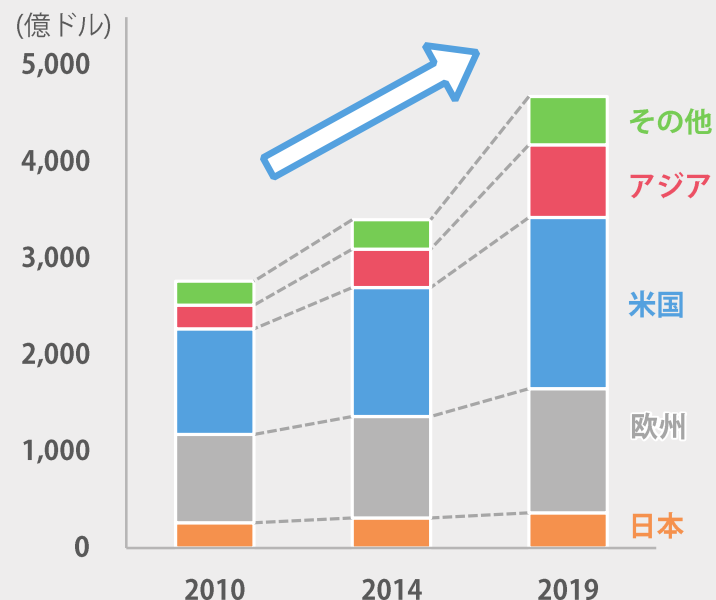
医療機器市場の牽引役は海外

国内の耳鼻咽喉科施設数



厚生労働省『医療施設（動態）調査・病院報告の概況』より作成
2020年は同程度の年平均減少が続いた場合を想定

世界の医療機器市場



Epicom "Worldwide Medical Market Forecasts to 2019" より作成

**国内の医療機器市場は飽和傾向
今後は新興国を中心に海外市場が大きく拡大**

補聴器と医用検査機器を手がける強みを活かす

- 中国では健診市場の創出に向け、医用検査機器の拡販に取り組む
- 国立バックマイ病院での実績を今後ベトナム国内の各地へ拡大
- “コードレスオーディオメータ”で健康診断における聴力検査の効率化を狙う



国立バックマイ病院は日越聴覚センター設立後、多くの患者が来院。当社の検査機器での診断を通じて当社補聴器の購入につながっている



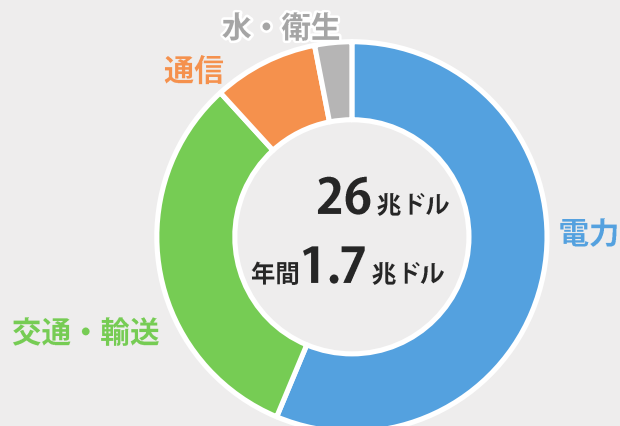
世界初のコードレスの受話器を持つオーディオメータをドイツの国際展示会で発表、多くの注目を集める



音響・振動計測器

海外市場での販売を拡大

アジアのインフラ投資必要額(2016-2030)



アジア開発銀行 "Meeting Asia's Infrastructure Needs" より作成

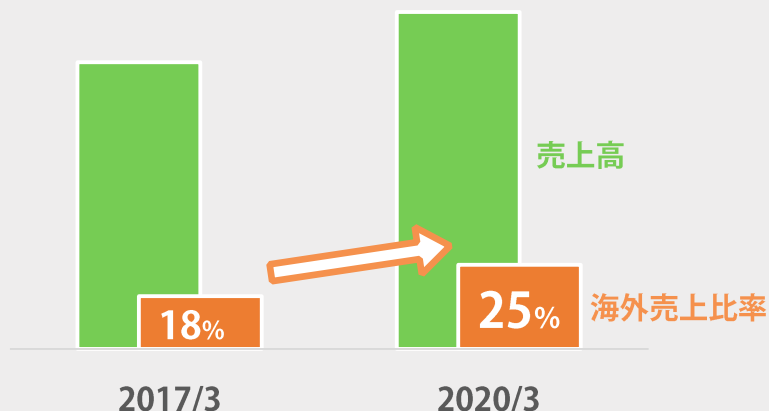
今後アジア圏を中心に
インフラ投資が拡大



地域ごとに適した施策を実施し、
海外売上比率を向上

- 相次ぐ空港の新規開業、離発着数増加を
航空機騒音監視装置の販売につなげる
- アジアの日系企業の計測ニーズに
マッチした製品を拡販
- 騒音に関する法整備が進むベトナム等に、
騒音・振動監視のシステムを輸出

今後の海外販売比率目標



環境計測の市場は追い風基調

- 東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う公共工事の増加
- インフラの新設・老朽化
- 騒音・低周波騒音への苦情の増加

→国内トップの地位を固める

※ 環境計測…行政機関などによる生活環境保全のための計測
産業計測…工場設備の保守点検やものづくりの過程における計測など

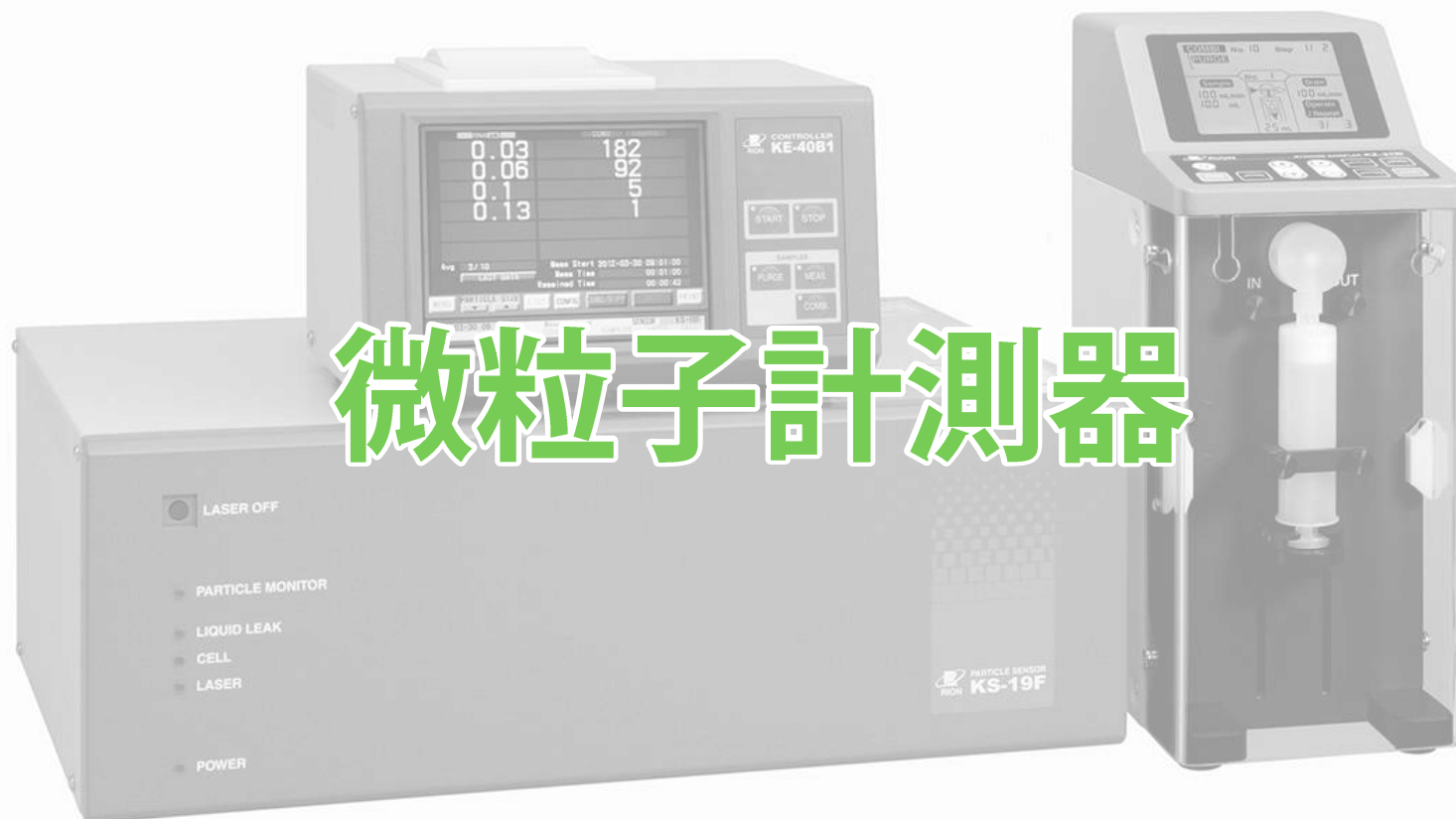
産業計測で新たな顧客にアプローチ

- 産業計測分野の新たな販売店網を構築
- 2014年発売の多機能計測システム「SA-A1」の無線機能、ソフト面を充実することにより顧客へアピール



SA-A1

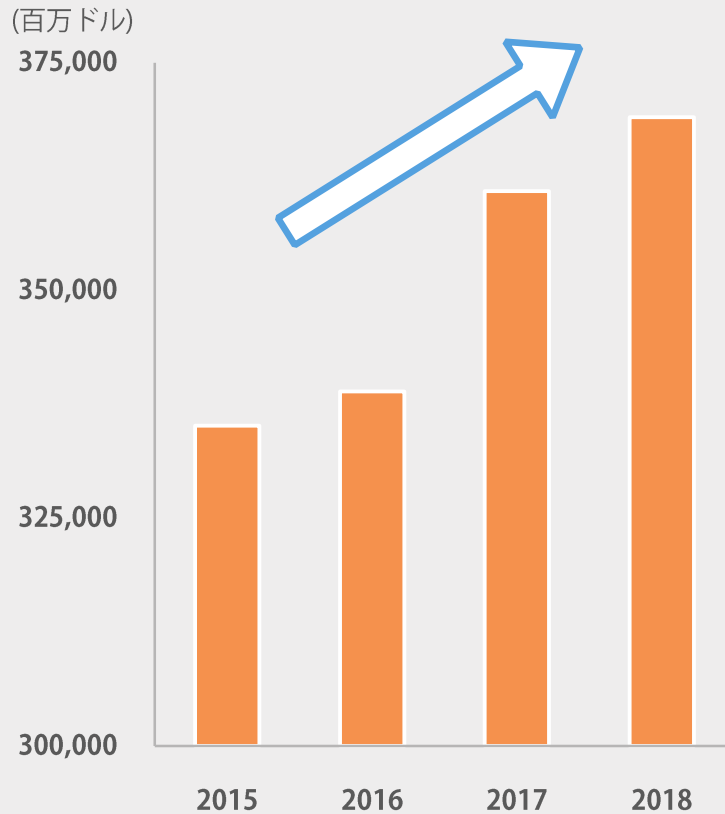




微粒子計測器

メインである半導体市場で優位性を確保

世界の半導体市場規模予測



世界半導体市場統計 (WSTS) より作成、2015年は実績値

IoT、自動運転の普及による
需要のほか、汎用製品向けの
半導体も拡大の見込み



- 液中微粒子計の最先端機種の新
生産設備を増強し、更なる拡販
- 高まる微細化要求に対応した機種を
今後市場投入

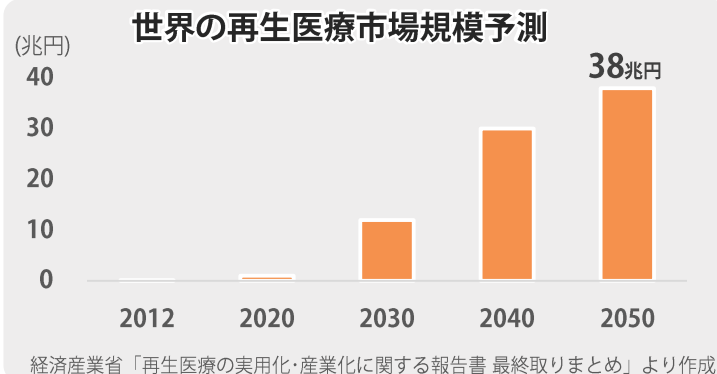


KS-19F (2014年発売)

再生医療、医薬・製薬市場の販売拡大

今後大きく成長する市場に向けて
微粒子計測器を拡販

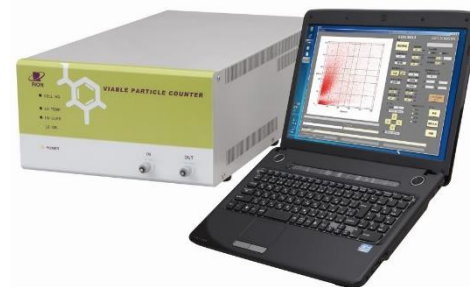
- 医薬・製薬・再生医療市場に
向けての販売を強化
- 今後は海外市場にも進出



生物粒子計数器による新市場の開拓

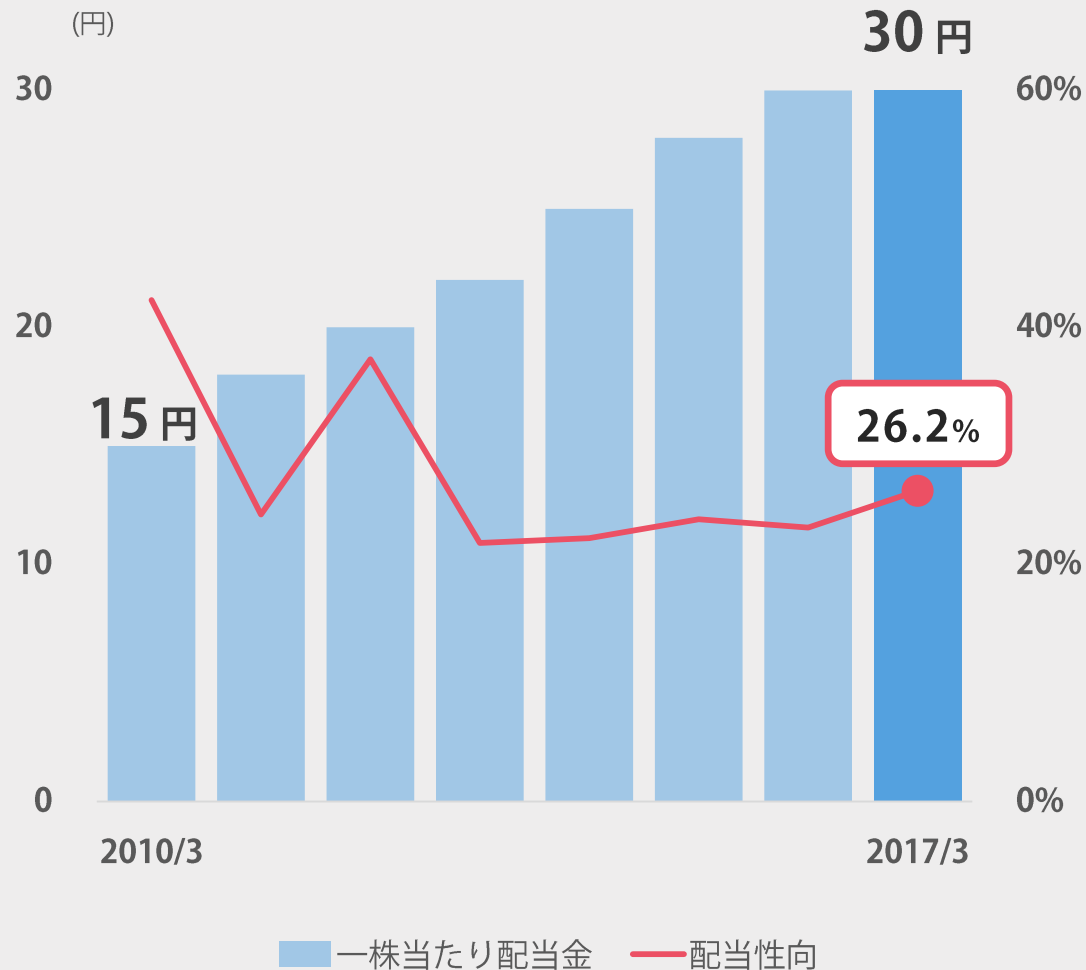
更なる認知度向上を図りつつ、新たな分野を模索

- 浄水場、透析市場向けは実証実験などの結果、
納入実績を上げつつある
- 食品や医療分野への応用も視野に入れる



株主還元策について

一株当たり配当金と配当性向



業績に応じた配当の向上と
配当性向の維持に努める



リオンはすべての行動を通して
人へ 社会へ 世界へ 貢献する

Contributing to people, society and the world through all our activities